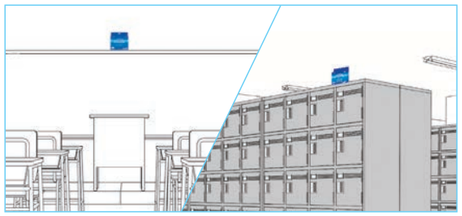
選べる空間除菌バリエーション

一般的な教室を1つでカバー！



教室や下駄箱など、人の多い場所に設置！

① ② ③ ④

＜使用上の諸注意＞

●本品は食べられません。●小児の手の届かないところで保管、使用してください。●本品は二酸化塩素の発生剤です。微量の塩素臭がする場合がございます。●転倒や落下の恐れがないよう注意し、据え置き又は壁掛けにて設置してください。●刺激臭を感じることがあるため、本品は人及び動植物から離れた場所でご使用ください。●本品は金属を腐食させる可能性があるため、貴金属や電子機器の近くでの使用はお控えください。●多少の漂白作用があるため、色物の衣類・敷物・家具等の側での使用はお控えください。●使用後は可燃ごみとして廃棄してください。●用途以外に使用しないでください。●カートリッジのアルミ袋を開封する際、ハサミなど鋭利な刃物はご使用しないでください。●ご利用環境により成分の広がりは異なります。試験機関に依頼し、菌・ウイルス・悪臭への効果を確認しておりますが、実際の教室・保健室などでは環境が同じではないため、効果が増減します。

二酸化塩素発生剤
クロッツ空間除菌

規格		商品コード	価格
①スーパー	30～40畳	908-441	￥4,800（税込￥5,280）
②ワイド	10～20畳	908-442	￥2,800（税込￥3,080）
③レギュラー	6～12畳	908-443	￥2,100（税込￥2,310）
④ミニ	1～4畳	908-444	￥1,100（税込￥1,210）

【サイズ】①20.5×20×3.5cm②18.5×18×3.5cm③17.5×17×3cm
④14.5×15×2.5cm【重量】①約300g②約180g③約123g④約77g

■ JAN コード

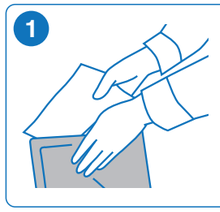
規格		JAN コード
①スーパー	30～40畳	4571263738192
②ワイド	10～20畳	4571263738185
③レギュラー	6～12畳	4571263738178
④ミニ	1～4畳	4571263738161

＜ ご注意 ＞
二酸化塩素は空気よりも比重が大きいためなるべく高めの場所に設置してください。

クロッツの使い方

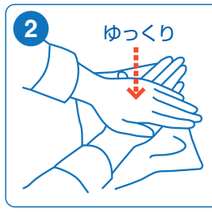
適応畳数は天井高2.5mとした場合です。適応畳数以下でのご使用はお控えください。

1



不織布カートリッジをアルミ袋から取り出します。アルミ袋を開封する際は中の不織布を傷つけないよう注意してください。

2



不織布カートリッジを平らな場所に置き、青い液の入った中袋を外側からゆっくりと手のひらを使って押しつぶします。

3

つぶした後、反応熱で30分程熱くなりますが問題はありません。不織布カートリッジは破らないでください。

4

外装箱に不織布カートリッジを戻します。任意の場所に壁掛け、または据置いてご使用ください。

有効期間60日間

二酸化塩素発生剤
クロッツ空間除菌
CLO_2

クロッツの詳しい情報はWEBでも公開中です！

https://www.sanwa303.co.jp/product/1029/

■製品は改良のため、予告無く変更する場合がありますので、ご了承ください。
■写真及び印刷の仕上がり上、現品と色合いが若干異なる場合がございます。
■商品のサイズ、質量などは全て（約）の値です。
■このカタログは、2023 年 4 月現在のものです。 10372

sanwa
株式会社三和製作所
〒132-0021　東京都江戸川区中央 4-11-8
TEL：03-5607-7811　FAX：03-5607-7812
http://www.sanwa303.co.jp

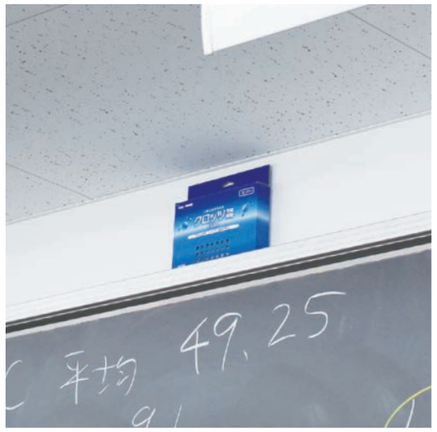
健康をサポートするお近くの代理店

Medical & Care
Sanwa Original

二酸化塩素発生剤
クロッツ空間除菌
CLO_2

教室内の空間除菌で冬のウイルス対策！

―― 教室・職員室・昇降口・廊下・トイレなど ――



学校現場に見る感染症対策

錦城学園高等学校 教室

学校導入向け
クロッツの特徴

閉めきった冬の教室を ひと箱でカンタン除菌

大空間も一つでOK 30〜40畳

教室に1箱の設置でOK！

クロッツスーパー１つで最大約40畳(一般的な教室の広さ)をカバー。
各教室に1つ置くだけなので手軽で経済的です。
掛置兼用で、黒板の上や棚など室内の様々な場所に設置できます。

潰して反応 60日有効

簡単便利 潰して使う簡単パック式

中袋を押しつぶせば準備は完了。紙製の外箱に入れて使用します。
使いたい時に簡単にセットできるので便利です。
反応後、約60日間効果が続くので取り替え回数が少ないのもポイントです。

除菌＆消臭で快適空間

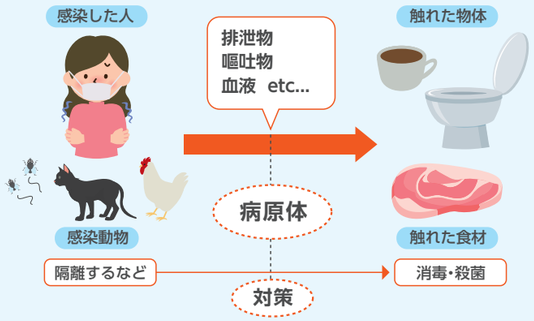
消臭効果にも注目！

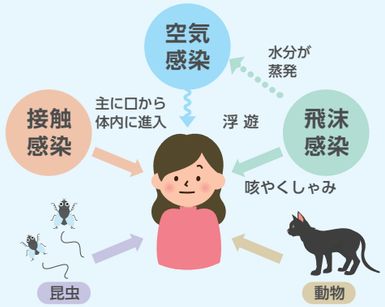
新鮮な二酸化塩素を放出し、室内空間のバイ菌やカビ、ウイルスなどを不活性化。
高い消臭効果により教室のロッカーまわりや美術室、部室などニオイのこもりやすい場所で活躍します。
※反応開始直後は、二酸化塩素のニオイが強く感じられる場合があります。

感染源と感染経路について

感染源について

病原体に感染した人・動物・昆虫、
病原体で汚染された物や食品が感染源となります。
具体的には、感染した人や動物などの排泄物・嘔吐物・血液・体液など、
また感染した人や動物が触れた物や食品などです。
感染源を隔離・消毒することなどの対策が必要です。





感染経路について

ウイルスの感染経路は主に、接触感染、飛沫感染、空気感染などが挙げられます。
接触感染はドアノブなどに手を触れることで付着し、感染します。
飛沫感染は咳やくしゃみなどで、飛んだ唾液などに含まれる病原体を吸入することで感染し、
空気感染は空気中に浮遊する菌を吸入することで感染します。

感染源・感染経路を理解し、事前に対策することが大切です！

学校導入事例

錦城学園高等学校
大窪景子先生より

錦城学園高等学校に聞く クロッツ設置と感染症対策

取／材／協／力　今回ご協力いただいたのは **錦城学園高等学校**

錦城学園高等学校は、創立130年以上の歴史を持ち、生徒数は約800名、共学化して10年目となる（2015年現在）。保健室では「将来のための身体づくり」を目標に、自身の身体に興味を持ち、将来に生かせる予防医学的な知識を身に付けることができるよう指導が行われている。自身の健康を意識することは、周囲への優しさにも結びつくと考え、「健康があたりまえではなく幸せなこと」と思えるようなコミュニケーションが日々交わされている。これらの考えは同校の感染症予防対策にも強く活かされている。

＜学校導入事例に見る感染症対策とクロッツ＞

── 先生は錦城学園高等学校にいつごろ赴任されたのですか？

約12年前になります。その前は看護師として医療現場で働いていました。その経験を予防医学に活かしてみたいと思い、ご縁もあって本校でお世話になることとなりました。

── 学校の保健指導と医療現場で「違い」はありましたか？

赴任当初「学校現場における感染症への意識の低さ」を感じることがありました。前職でインフルエンザ脳症の重い後遺症に苦しむ患者さんや家族を見てきたからだと思います。

授業や部活動を休みたくない、皆勤賞を目指す…様々な理由で生徒たちは体調不良を顧みずに登校します。それがインフルエンザやノロウイルスなど感染症が原因だったとしても。実際、赴任直後は学校で感染したと考えられるケースが多く、学級閉鎖なども頻繁にありました。

── 実際にどのような取り組みをされているのでしょうか？

1.感染症の正しい知識を持ち、学校全体で「予防意識」を高める
2.手洗い、うがい、マスク装着の励行などの「予防対策」を取る
3.感染者が出た場合は、早期に感染源と経路を特定し「拡散防止」に努める

上記3つは「学校内で感染を広げない」という部分を最重要視して行います。特に1と2は、赴任当初から強く、厳しく、何度もメッセージを発信してきました。それでも家庭や通学路などからうつることはありますが、そこはやむを得ません。

── 「クロッツの使用」とは「拡散防止」の取り組みとなるのでしょうか?

はい。本校ではクロッツを各学年の各教室に設置しています。流行前から全てに配布・使用するのは、コスト面から考えても難しい。本校では予防というより「学校内で感染を広げない」ために使っていますね。

設置時期は「感染者が出て、教室内で拡大しそうなタイミングの直前」をうまく見計らって設置しています。各クラスの感染者数や全国的な流行度などをトータルに加味するため設置時期は毎年変わってきますが、ピーク時を含む2〜3カ月程度が有効期間になるよう使用しています。実際、時期になるとクラス担任から「クロッツまだ？」という要望もあるんです。

── クロッツを利用しはじめる前後で、変化はありましたか？

保健室では各クラス別に、このようにインフルエンザやノロウイルス胃腸炎の発生状況を、毎年逐一調査して数値化／リスト化しています（表を見せていただく）。周辺の学校で流行していても、本校では学級閉鎖や学年閉鎖の発生率、生徒の感染数ともに近年大幅に減っています。「予防意識」「予防対策」の上で、適切なタイミングでクロッツを使用することで、良い変化が起こっている実感はありますね。

また興味深い話として、クロッツ設置後に「あるクラスだけ感染者数の増加が止まらない」ということがありました。教室を調べたところ、設置中のクロッツを見ると箱が裏返しで置かれて穴が塞がっている（笑）。しかも薬剤を反応させていなくて、ただ置いてあるだけ、という状況でした。

── 感染症対策のポイントはどこにあるのでしょうか？

学校での感染症対策を、保健室だけですべてをやりきることは不可能です。

やはり各クラス担任や学年主任、あるいは部活動の担当教諭などの協力が不可欠で、その環境をどう作るかが重要です。本校でもこれらの先生方が日頃からの生徒への指導や感染状況の共有を行ってくれているからこそ、実現できていると言えます。

学校は学級・学年閉鎖を避けたいと考えますし、生徒自身も苦しい思いをします。皆が「かかりたくない」という共通認識はあるのです。でも本校ではその先を考えてほしい、自分だけが治ればいいのか？ということを考えるよう指導しています。つまり感染症を他の誰かにうつしてしまう危険性を考える「周囲への配慮」です。学校の友人や家族、はたまた登下校ですれ違う人々やその家族に感染を広げる危険性をどう考えるのか？そんな方々が重症化して命の危険にさらされたり、重い後遺症に苦しむことになったら…。

このようなことを、私としてはこれまで一貫して発信してきました。現在では生徒や先生方が正しく理解し、共感し、行動してくれることで、本校の感染症対策の取り組みが価値と結果が出てきているのではないかと思います。

── 本日はありがとうございました。

インタビュー協力：三和商事株式会社

※クロッツによる空間除菌効果は使用環境によって増減します。
文中で紹介されている効果は利用者の主観に基づきます。